



## ●わが社のCSR活動

# CSR

# シーキューブが果たす社会的責任

シーキューブ株式会社

CSR推進部長 畑中 明敏

### 1. はじめに

相次ぐ企業不祥事や環境破壊の進行などを背景に、昨今企業の社会的責任（CSR）への関心が高まっており、CSR活動は企業が社会やステークホルダーから信頼を獲得するために不可欠な取組みとなっています。シーキューブは、企業理念の中で「最善の技術で心を伝え、人間性豊かな社会を創造します」を存在意義として宣言するとともに、CSRを経営の基盤と位置づけ、社会の持続的発展に積極的に貢献していくことを方針としてさまざまなCSR活動に取り組んでいます（図1）。以下、

重点的な取組み、特徴的な取組みを中心にシーキューブのCSR活動について紹介します。

### 2. シーキューブのCSR活動

#### 2.1 コンプライアンスの徹底

法令等の遵守や倫理的な行動の実践によるコンプライアンスの徹底は、社会的責任の基本をなすものです。このことから、シーキューブでは全役職員の行動指針として「シーキューブグループ倫理綱領」を定め、その推進を図っています。また、社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、全社をあげて社



写真1 シーキューブグループ倫理綱領（平成23年10月に改良、全員が携行）

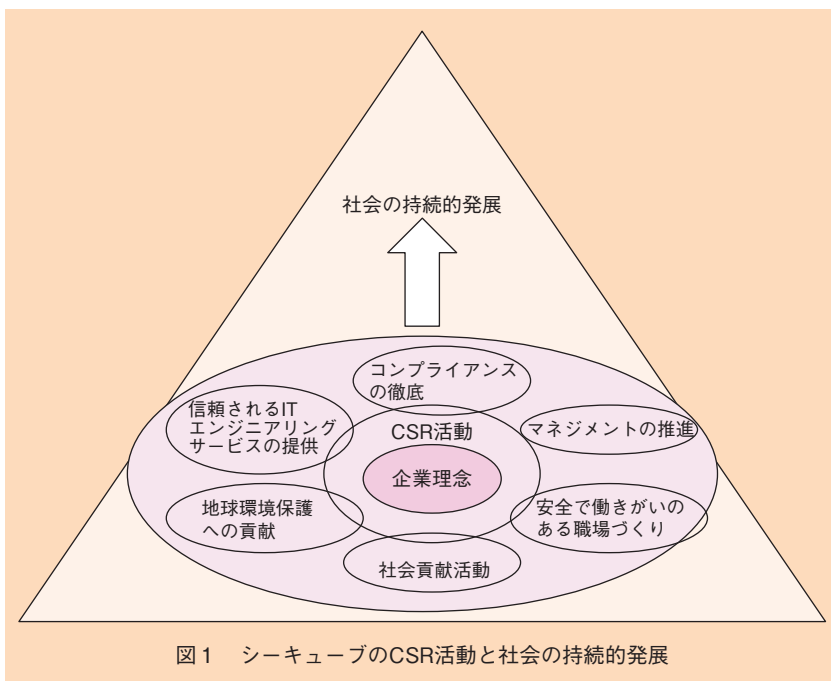


図1 シーキューブのCSR活動と社会の持続的発展

員教育などの施策に取り組むとともに、全員が倫理綱領の小冊子（写真1）を携行し、倫理意識を高めるなどの取組みを進めています。シーキューブは、今後ともコンプライアンスをあらゆる事業活動の基本に据え、企業不祥事とは無縁の信頼ある企業経営を実践していきます。

#### 2.2 信頼されるITエンジニアリングサービスの提供

ITエンジニアリング企業としてお客様や社会から信頼される施工を推進することは、発注者様への責任であるとともに社会的な責任でもあります。シーキューブは以下のようなさまざまな活動により、信頼され



写真2 東日本大震災被災設備復旧現場  
(岩手県釜石市)



写真3 東日本大震災被災設備復旧現場事務所  
(岩手県遠野市)

るサービスの提供に努めています。

(1) 災害復旧支援活動

通信インフラの社会的重要性を踏まえ、災害復旧支援を最優先課題として取り組んでいます。特に東日本大震災に伴う復旧支援要請に対しては、緊急支援本部を立ち上げ、迅速かつ全面的な支援を行いました。その中でも岩手県東南エリアを担当したNTT東日本様設備の復旧支援活動は最大級のものとなり、当該エリアの通信の復旧に大きな貢献ができました(写真2・3)。さらに昨年の台風12号、15号による被災に際しても関西エリア、東海エリアで復旧支援要請に迅速に対応しました。今後とも災害復旧支援に使命感を

もって取り組んでいきます。

(2) お客様サービス向上への取り組み

お客様への品質保証は企業が果たすべき社会的責任です。しかしそれは法令遵守と同様最低限の責任であり、お客様や社会からの信頼獲得にはその満足度を高める活動が不可欠です。

●サービステクノロジー活動

シーキューブでは、お客様満足の向上をめざしてサービステクノロジー活動を推進しています。サービステクノロジーとはシーキューブの造語ですが、お客様の目線に立ち、お客様の気持ちを感じとり行動できる技量のことです。これを施工や保守の現場で発揮することを各部門の

目標としており、推奨された優秀な活動についてはサービステクノロジーリーダー活動として表彰を行っています(表1)。今後とも、こうしたお客様や社会からの信頼を高める活動を積み重ねていきます。

●女性技術者の積極的活用

女性のお客様への安心の提供など、お客様サービスの向上に女性技術者の果たす役割には大きなものがあります。このことから積極的に女性技術者の活用を図っています。女性技術者の成長は目覚しく、平成22年の情報通信エンジニアリング協会 光通信競技会ではシーキューブ社員が女性トップの7位入賞を果たしました。今後とも、技術者としてさらなる成長、活躍が期待できます(写真4)。

●近隣影響(騒音、危険等)の低減

騒音や危険等、屋外の工事では、多くの場合近隣への影響が避けられません。シーキューブでは、危険の排除について安全対策の中でしっかり取り組むほか、騒音対策として低騒音バケット車の導入(写真5)、バッテリー式電源の開発・導入(写真6)を進めるなど、近隣影響に配慮した社会的信頼施工の推進を図っ

表1 サービステクノロジーリーダー活動事例

事例	概要
お客様の信頼向上につながった誠意ある不具合対応の実施	光ユーザ工事後の不具合対応において、お客様からのお褒めのメールにつながる、誠意ある対応をした。お客様から、工事が原因ではなかったのに原因究明までいろいろ試し親身になって対処してくれた、との称賛をいただいた。
お客様の信頼向上につながった信頼感あるユーザ工事の実施	メタルユーザ工事において、お客様からの称賛のはがきにつながる、親切で信頼感のある対応をした。お客様から、きびきびとして好感・安心感をもてた、好意的に対処してくれた、模範社員です、との称賛をいただいた。
一般車両の安全確保に十分配慮した工事の実施	バケット車を停車した道路が狭く、反対車線側には蓋がされていない、見えにくい側溝がある状況で、一般車両が反対車線を通過する際に側溝へ落ちることを防止するため、側溝側にもセーフティコーンを設置し一般車両の安全確保を図った。

ています。

### 2.3 地球環境保護への貢献

地球環境保護は社会の持続的発展



写真4 シーキューブ女性技術者の活躍を伝える新聞記事

のために社会全体で取り組むべき重要課題であり、当然企業もその責任を果たす必要があります。シーキューブは、環境関連法令の遵守により廃棄物管理、浄化槽管理の徹底等を図るほか、以下の取組みにより環境保護に貢献しています。

#### (1) CO<sub>2</sub>抑制への取組み

##### ●ビル、設備の環境対策

現在、さらなる事業強化に向け拠点の整備を進めており、新たな拠点ビルを建設済みまたは建設中ですが、そのすべてに環境設計を適用しています(写真7)。これら建設資金の一部は、環境省の「京都議定書目標達成特別支援無利子融資(利子

補給)制度」を活用した環境経営支援ローンで調達しました。また本社ビルの空調設備改修(予定)にあたっては、国土交通省の「建築物省エネ改修推進事業補助金制度」を活用することとしています。

##### ●節電対策(超計画節電)

東日本大震災後、本社ビル等で節電の限界に挑戦する「超計画節電」を実施しました(写真8)。実施日を定めて照明、空調、エレベータ、PC等の節電を通常の節電を超えて実施し、非常事態に備えるノウハウを蓄積しました。

今後通常の節電に加え、照明のLED化や端末のシンククライアント



写真5 バッテリー駆動型高所作業車(20台が稼動中)



写真6 開発したバッテリー式電源装置「P.S.CUBE」(無騒音給電で騒音防止)



写真7 環境設計\*を施し完成した春日井ビル(愛知県)  
(平成22年7月竣工)  
\*太陽光発電屋外灯、天然採光、雨水再利用等



写真8 超計画節電の実施(本社ビル)

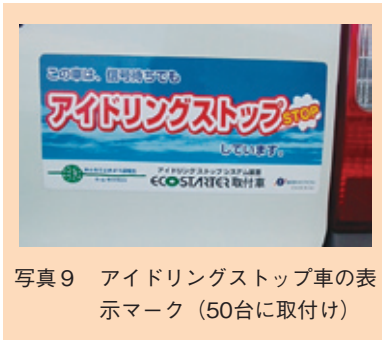


写真9 アイドリングストップ車の表示マーク (50台に取付け)

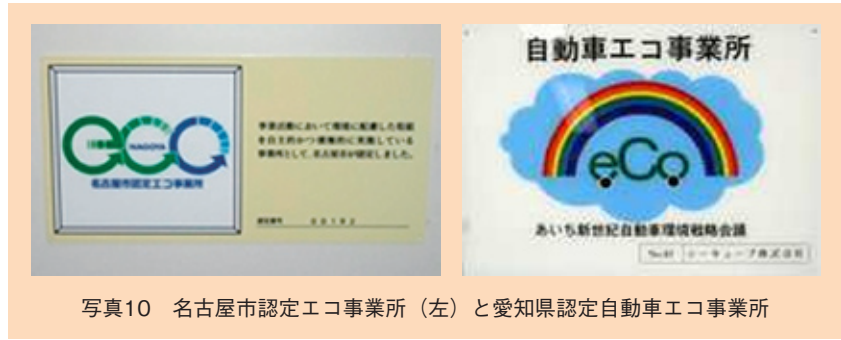


写真10 名古屋市認定エコ事業所 (左) と愛知県認定自動車エコ事業所

化を進めることで、一層の省電力化を図る予定です。

●紙資源の削減 (ペーパーレス会議)

使いやすいタブレット端末が普及する中、これを活用したペーパーレス会議を実施しています。会議資料は、すべて端末からの操作により無線LAN経由でサーバから読み出して表示し、紙資源の不要化を図っています。

●排気ガスの抑制

車両からの排気ガスの抑制はCO<sub>2</sub>削減に大きな効果があります。シーキューブでは後付アイドリングストップ装置を業務用車両50台に取り付け、排気ガスの抑制を図っています (写真9)。またエコドライブについて社員教育によりその推進を図るほか、大阪市のEV車カーシェアリング事業に参加し協力していま

す。

●エコ事業所、自動車エコ事業所の認定取得

当社社は、平成15年度に名古屋市から「エコ事業所」として、また平成19年度には愛知県から「自動車エコ事業所」として認定されました。いずれも、事業活動における環境に配慮した積極的取組みが評価されたものです (写真10)。

●環境関連設備工事の施工 (太陽光発電、LED)

昨今導入が進む太陽光発電設備の施工に取り組んでいます。自社ビルへの直営設置で修得したスキルを生かし、受注工事に取り組んでいます (写真11)。またLED化工事にも積極的に取り組み、省エネ化に貢献しています。

(2) 「シーキューブの森」活動

「シーキューブの森」は、会社創立50周年を記念し、林野庁の「法人の森林」制度の活用により三重県いなべ市の国有林内に開設したもので、平成17年6月に活動を開始しました。従業員や家族による森林体験を通じて自然環境への意識向上を図ることを目的としており、遊歩道整備や木工教室などさまざまな活動を実施しています (写真12)。

2.4 社会貢献活動

社会からの公共的あるいは福祉向上等のニーズに応えることは、社会の一員としての責務です。シーキューブは、地域社会の要請を踏まえたさまざまな社会貢献活動を実施しています。高専等からのインターンシップ受け入れや障害者雇用といっ



写真11 直営施工した太陽光発電設備 (坂祝ビル (岐阜県))



写真12 「シーキューブの森」活動 (遊歩道の整備をする参加者)



写真13 回収したエコキャップを前に (愛知支店)



写真14 献血協力 (静岡支店)

た教育、自立への支援活動、シーキューブ版タイガーマスク運動 (年間を通じた募金活動) や社会福祉協議会等への賛助、エコキャップ収集、使用済み切手や未使用はがきの収集、献血協力等の人道的活動、近隣清掃、地元イベント等への協賛やスポーツ後援といった地域貢献活動に取り組んでいます (写真13・14)。今後とも良き企業市民として地域と一体となった活動を継続し、社会との共生を図っていきます。

## 2.5 安全で働きがいのある職場づくり

従業員の安心・安全確保、人権の尊重、働きがいのある職場づくり

は、人間尊重の立場から企業が果たすべき社会的責任のひとつです。社員の健康の維持、増進はもとより、特に建設業務では人身事故、設備事故のリスクが大きいことを踏まえれば、安全施策の推進は極めて重要な取り組みです。シーキューブでは、過去の経験を教訓とした「事故絶滅三原則」(図2)の実践を基本に、工事種別ごとにポケットサイズの「安全作業心得」(写真15)を作業現場に必ず携行する、実践/体験型安全教育(写真16)を推進するなど、安全第一の徹底を図っています。一方、社員の能力開発について技能向上訓練の推進はもとより、資格取得支援、通信教育など社員の自己啓

発、チャレンジ意欲に応えるプログラムを提供しています。

## 2.6 マネジメントの推進

企業が社会的責任を実践することを可能にする企業統治のシステムを



写真15 現場必携の安全作業心得 (左から線路宅内、土木、ネットワーク、移動無線の各編)

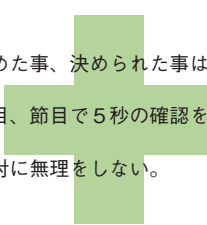
- 
  - 1. 決めた事、決められた事は必ず守る。
  - 1. 節目、節目で5秒の確認をする。
  - 1. 絶対に無理をしない。

図2 シーキューブ事故絶滅三原則



写真16 安全実践演習 (移動通信部門)

もっていること自体が、企業の社会的責任です。シーキューブはステークホルダーからの信頼に応えるべく、コーポレートガバナンス体制を機能させるとともに、品質、安全衛生、環境、情報セキュリティ、財務報告の信頼性という重要な個別目的達成のためのマネジメントシステムを運用し、ISO等については外部認証を取得しています（写真17）。

### 3. おわりに

以上、シーキューブが取り組むCSR活動について紹介しました。社会インフラとして、あるいはさまざまな問題解決の手段として、IT技術は今後とも重要な役割を果たします。シーキューブはIT分野の一翼を担う総合エンジニアリング企業として、社会にさまざまな価値を提供することにより、社会とともに成長し発展していきたいと考えています。



写真17 4 マネジメントシステム登録証（品質、安全衛生、環境、情報セキュリティ）